

D-9

観光形態に着目したクルーズ旅行の競合分析

Competition Analysis of Cruise Travel Which Aimed at Sightseeing Types

指導教授 轟 朝幸

4115 築瀬 和也

1. はじめに

近年、世界のクルーズ人口は急速に増加している。一方、わが国のクルーズ人口も近年増加傾向にあるものの、世界のクルーズ人口と比較するとその増加幅は小さく、日本のクルーズ市場は拡大の余地が大きいとされている¹⁾。

クルーズ市場の関連研究として、藤生ら²⁾は、クルーズの潜在顧客は存在することを確認している。しかし、費用・内容・種類などクルーズ旅行に関する情報が浸透しておらず、旅行の選択肢にクルーズ旅行が含まれていないことを示唆しているが、定性的な議論に留まっている。旅行選択肢にクルーズ旅行が含まれるか否か、旅行選択肢がどれほど存在するかを把握するためには、クルーズ旅行の競合となる観光形態の有無や、その形態が何かを定量的に明らかにする必要がある。しかし、クルーズ旅行と他の観光形態との比較や競合関係を明らかにした研究は筆者の知る限り存在しない。

そこで本研究では、クルーズ旅行とそれ以外の観光形態との類似性を分析し、クルーズ旅行との競合関係にある観光形態を明らかにすることを目的とする。

以上を明らかにすることで、観光形態の中でのクルーズ旅行の位置づけが明確になり、クルーズ市場拡大に向けた施策を検討できるものと考えられる。

2. 研究方法

2. 1 観光形態の設定

本研究では、観光形態を移動パターン及び活動パターンより分類し、クルーズ旅行及び移動自体に魅力を感じるという点で類似すると考えられる観光列車による旅行を加えた全9つの観光形態を作成した(表-1)。

表-1 各観光形態の概要

観光形態	内容
観光滞在型	海外の一つの都市に滞在しながら、現地の自然や名所を巡る
観光周遊型	海外の様々な都市を転々とし、宿泊場所を変えながら各地の名所や自然を巡る
リゾート滞在型	海外リゾート地での滞在を目的として、現地でのんびり過ごす
アクティブ型	海外の一つの都市に滞在しながら、現地でアウトドアやスポーツ、レジャー施設などでのアクティビティを目的とする
文化体験型	海外の一つの都市に滞在しながら、現地ならではの文化体験や学びを目的とする
スタンダードクルーズ	スタンダード(カジュアル)クラスのクルーズに乗船し、海外を含む様々な寄港地を巡り観光をする
プレミアムクルーズ	プレミアムクラスのクルーズに乗船し、海外を含む様々な寄港地を巡り観光をする
フライ&クルーズ	海外のクルーズ発着港までを国内から飛行機で往復し、そこからクルーズ客船に乗船し、寄港地を巡り観光をする
観光列車	海外の豪華列車や高原列車などに乗車することを目的とし、様々な観光地を巡る

2. 2 分析手法

観光形態同士の類似度を定量的に把握するために、多次元尺度法(以下、MDS)を用いる。MDSは、サンプル間の競合関係を把握することができる分析方法の一つであり、商品ブランドなどの評価対象物について、対象物間の類似性の強さをマップ上の点間距離に置き換えて、競合関係を視覚化する手法である。また、観光形態のイメージを把握するため、コレスポンデンス分析も行う。クロス集計のデータをもとに、変数間の関係を1つの平面上にマッピングして示す手法である。

2. 3 アンケート調査

アンケート調査の概要を表-2に示す。本研究で使用するデータはWEBアンケート調査により収集する。MDSの基本的な質問方法である対比較法を用い、各観光形態の類似度を4段階で評価してもらい、さらに、観光形態の競合要因を把握するため、「料金が高そう」や「リラックスできそう」など計14項目を設定し、各観光形態のイメージを複数回答で評価してもらい、考察の充実を図る。

表-2 アンケート調査実施概要

項目	内容
調査目的	観光形態の類似度及びイメージを分析し、競合関係を把握する
調査対象	海外旅行に興味のある20~70代・学生を除く男女
調査期間	スクリーニング調査・本調査 2017年11月13日(月)~11月20日(月)
調査方法	WEBアンケート
サンプルサイズ	400
対象地域	全国
調査内容	観光形態の類似度評価、イメージ評価、経験・意向、利用しない理由、個人属性

3. 分析結果

図-1に、全サンプルでのMDSの結果を示す。MDSのストレスの適合基準より、次元数は3とした。

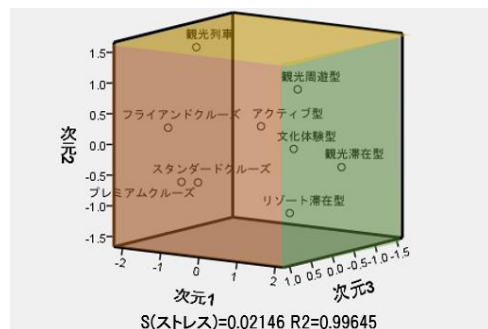


図-1 MDSの結果(全対象) n=400

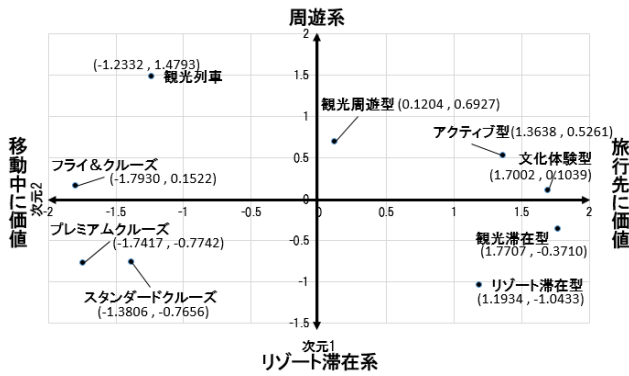


図-2 MDSの結果(次元1-次元2)

また、図-2は、図-3の次元1と次元2を抜き出した結果である。座標を見ると次元2軸を境に大きくわかれており、次元1は移動中または旅行先に価値を持つ形態かを表す軸、次元2は周遊系かリゾート滞在系を表す軸と解釈した。これらの特徴が、回答者による観光形態の類似度の判断基準と考えられる。

各観光形態間の距離から競合性の高いグループを把握するため、出力座標からクラスター分析を行い、観光形態を次元1に関連して2つに分類した(図-3)。その結果、クルーズ同士の競合性は特に高く、観光周遊型及び観光列車ともある程度の競合性が確認された。したがって、これらの形態がクルーズを含む旅行選択肢になりやすい可能性が示唆される。

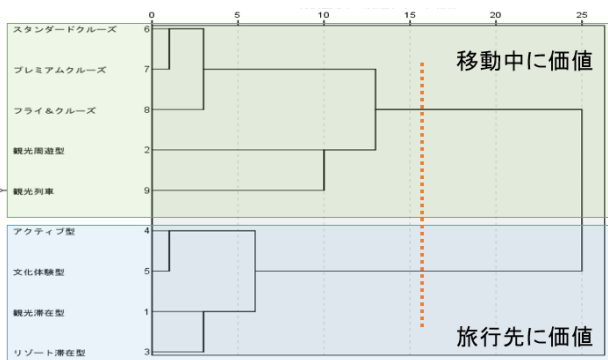


図-3 階層的クラスター分析の結果

図-4は、イメージ評価から競合要因を把握するため、各観光形態のイメージ回答数から作成したクロス集計表をもとにコレスポネンス分析を行った結果である。クルーズ近傍には、「料金が高そう」、「分不相応と感ずる」、「退屈そう」といった比較的ネガティブなイメージが多く、さらに図-5の各観光形態の全回答数に占めるイメージの割合を表した結果からも、高価格、分不相応のイメージは、プレミアムクルーズやフライ&クルーズにおいて高い割合を占めている。また、クルーズ近傍のポジティブなイメージとしては、「移動自体が魅力的」、「非日常感がありそう」、「満足

感がありそう」などがあり、観光列車との距離も近いことがわかる。

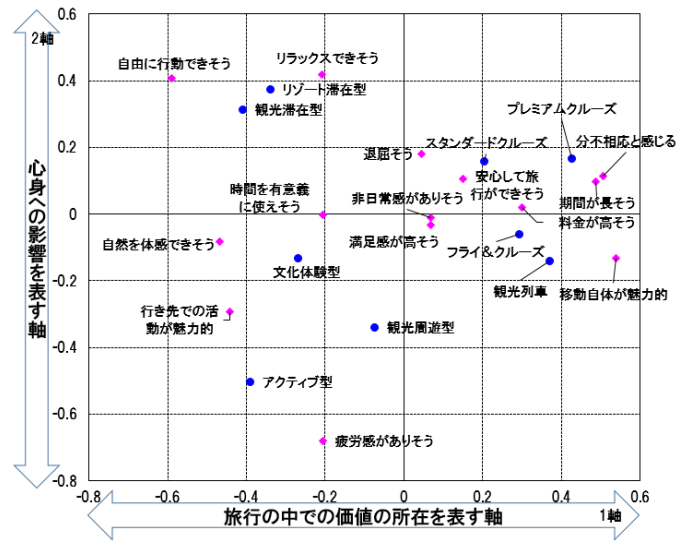


図-4 コレスポネンス分析の結果(全対象) n=400

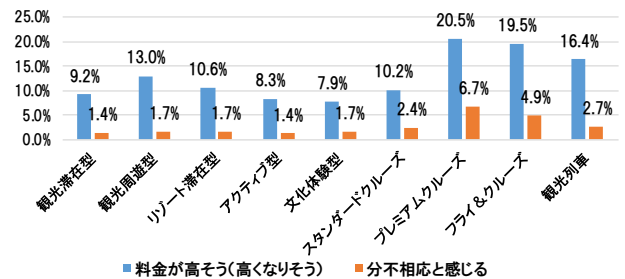


図-5 高価格と分不相応のイメージ評価割合

4. おわりに

本研究では、クルーズ旅行の競合関係を明らかにした。その結果、クルーズ旅行は他の観光形態との競合は高くなく、比較的競合するのは「観光周遊型」と「観光列車」であり、非日常感があるという点で「観光周遊型」、移動自体が魅力という点で「観光列車」との競合が高かった。つまり、クルーズ旅行は「観光滞在型」や「リゾート滞在型」など、旅行先に価値を持つ旅行との競合性は低い、移動中に価値や魅力を持つモードによる旅行や、様々な観光地を周遊する旅行と競合しやすいことが明らかとなった。また、クルーズは総じて高価格のイメージが強く、客船クラスが上がると、分不相応のイメージが強くなる。

謝辞：本研究を進めるにあたりご指導して頂いた日本大学・兵頭知助手、東京工業大学・川崎智也助教に感謝の意を表します。

参考文献

- 国土交通省港湾局, 国土交通省におけるクルーズ振興の取組について, [http://www.pa.skr.mlit.go.jp/general/image/policy/cruise/part1_matsuyama/02_shiryou2.pdf\(2017.12.1\)](http://www.pa.skr.mlit.go.jp/general/image/policy/cruise/part1_matsuyama/02_shiryou2.pdf(2017.12.1)).
- 藤生慎：我が国におけるクルーズ観光の実態分析, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM), Vol.41, 2010.